

英語教育推進校説明会質疑応答

ご質問・ご意見	回答
小張小学校の開門時間は何時か。	8時前後に開門になると思う。→7：50と確認しました
3人子どもがいる。人数が多かった場合は抽選と聞いているが、第1子、第2子以降が別の学校になる可能性についてどう考えているか。	今後検討して対応して参りたい。
兄弟を優先する可能性があるということか。	可能性も含めて検討して参りたい。
20名を下回った場合は追加の募集を行う予定はあるのか。	募集は行わないが、区域外就学の手続きは可能である。
英語教育推進校として一度認定されれば、この制度はずっと続くのか。	長い取組として続けて参りたい。
途中で推進校でなくなる可能性があるのか。	続けていくということでスタートすることをご理解いただきたい。なくなってしまうという心配はご心。
他の先生方も積極的に英語を使用するのか。	先生方は、基本的には他の小学校と同じように日本語での授業を行う。英語教育推進校となるので、学校全体としても積極的に英語を使用したコミュニケーションを進める。
近くで大規模な宅地開発行われるが、どこの学区になるのか。小張小学校の定員を超えた場合はどうなるのか。	学校総務課：小張近くに住宅開発が予定されているということだが、どの程度の戸数かは把握していない。正式な学区としては、「大字小張」という住所表記が小張小学校区となる。各学校のキャパシティもあるので、小張小学校の収容人数を大幅に上回る場合には、学区の見直しの可能性もある。学区の見直しについては、学区審議会を行って決めるルールとなっている。
定員を20名以上にしたり、学区外からの募集を停止したりする可能性があるということか。	教育長：現時点では、学区外からの募集を停止することは想定していない。新しい住宅の学区も確定していない。検討が必要な場合も出てくる可能性はあるが、この形で進めていきたいと考えている。
車の送迎が増えた場合に子どもの安全は保障されるのか。公共の交通機関はあるのか。	バスが運行しているが、ルート、本数とも充実しているとはいえない。車の乗り入れについては、学校とも相談し安全性を高めていけるよう調整していく。
「英語を使える15歳」とうたっているが、中学校でも今後このような取組をする予定はあるのか。	教育長：同様の意見をいただいている。中学校でもALTを増員していくことを検討している。子どもたちの学びが継続できるよう体制を整えて参りたい。

海外との学校との姉妹校制定や交流の予定はあるのか。	つくばみらい市はフィリピンカルカル市、台湾桃園市などと友好都市を結んでいる。オンラインなどから交流を始め、生きた英語を使えるようにしていきたいと考えている。
通常の公立小学校の英語教育との取組との違いについて教えていただきたい。英語を習得するためのカリキュラムについて、現時点でどの程度できあがっているのか、また今後HPで公開される予定はあるのか。	現在、通常の授業にALTが入り込むと形態について実践的に研修を進めている。英語の授業時数としては、本市では低学年も週1時間の授業を行っているが、市内の他の小学校と比べて、英語の授業時数が増えるということではない。ALTの配置は、現在1名のALTが週に2日間、英語の授業中心に入る状況から、次年度は3名のALTが常駐することになり、大幅な増加となり普段の触れ合いが充実したものとなる。カリキュラムにおいては、コミュニケーションスキルの向上を第一に考えており、特別な英語教育の課程を設ける予定はない。
英語教育推進校との取組は、他にもモデルケースがあって始めたことなのか、オリジナルのものなのか。すでに始めている先進校があれば、そこでの取組等を伺いたい。	昨年度、水戸市の柳川小学校を視察にいった。方向性は似ているが、ALTは1名であった。3名の配置、様々な教科に英語を取り入れる取組は、つくばみらい市独自である。先日、小張小学校の実践研修授業を参観してきた。先生方にも、試行錯誤しながら、熱心に取り組んでいただいている。 取手の山王小学校にも視察にいった。
小張小学校の見学等はできるのか。	学校の見学については、学校と調整し、期日が決まればHP等で周知できるよう検討する。
Englishデイの頻度について伺いたい。	現在は2、3か月に1回と思うが、次年度については増えていくと思う。
月1でも少ないと思うが、次年度のことは、どの時期に決まるのか。そのあたりをわかってから決めたい。	学校にも確認をして、回答する。
英語プレイルームについて、具体的に教えていただきたい。	子どもたちが休み時間に自由に出入りできる教室として、ALTの待機場所を兼ねるイメージでいる。休み時間等に自由に利用し、英語の本やゲームを置きたいと考えている。
充実したものにしてほしい。	環境を整えて参りたい。
人数の増加が予想されると思うが、運動会や参観日の車の駐車場を含め、学校設備面は大丈夫なのか。	学校の設備面については、児童数が多かった時期もあり問題ないと認識している。駐車場についても対応可能と考えているが、登下校時の自家用車の乗り入れについては一方通行にするなどの対応を進めていく。
ALTはどういった国籍の方で、途中退職した場合などの手立ては考えられているのか。	ALTについては外国籍の方となる。授業や学校生活に支障がないように配置して行く。
ALTは教員免許を持っているのか。	免許は持っていないが、子どもに対して英語指導をした経験等があると認識している。

大規模な宅地開発に伴って流入する児童が増えた場合、定員オーバーとなるが、兄弟が別の学校に通学する可能性について検討するという回答ではリスク管理が弱いのではないか。	
市ではALT個人に対しての面接はしていないのか。委託ということで、なげたまわっているのではないかという印象を受ける。	
体験して判断したいが、期間が短い。体験会ができない場合でも、授業の様子等を配信する考えはないのか。	募集期間が短く、十分に検討していただく材料が少ない中で判断をいただくことになり申し訳ない。学校自体がスタートしていない状況でのご判断となり難しいと思うが、可能な限り情報発信に努めて参りたい。 小張小学校のHP、特色ある教育活動に授業の様子等も公開している。
説明会の議事録もHPで公開してはどうか。	質疑応答については、HPで公開していく。
具体的に、授業の中でどの程度の割合で英語が入ってくるのか。	授業時間の中でいくと、研修授業を参観した中では2割から3割程度と感じた。通常の授業の中で、英語での単語を紹介したり、英語活動を取り入れたりしている。英語教育推進において、英語嫌いを作らない、ということを大切にしている。子どもの様子を把握し、教員とALTが話し合いながら、授業作りを進めていくことが大切だと認識している。子どもたちの英語を吸収する力は大きい、楽しく学んでいくことが効果につながると考えている。子どもたちの状況を見ながら、進めていく。
子どもたちが日本語でのコミュニケーションもとりながら、気軽に英語で話しかけられるようにしてほしい。	
どういう学校なのかについて、しっかりと決まっていないように感じる。山王小はEnglishデイを週に1回行っていると聞いている。近隣の学校との情報交流はないのか。つくばみらい市のオリジナルなのか。イメージができるように、どちらの学校に似ているのかなどを教えてほしい。入学を決めるに当たって情報が少ない。	山王小、柳川小とも、スタート当初からすぐに現在のような学校だったわけではなく、試行錯誤を重ねている。開校時期は大変だったと聞いている。こういう学校にしてほしいという要望も含めて、学校を作っていくことになると考えている。これからスタートする学校なので、現在の情報を元に、ご判断いただきたい。英語の好きな子どもたちに来てほしいと考えている。

転入学して就学する場合、子どもにも大きなリスクをもつての決断となる。英語教育推進校の強みをもう少しはっきりと伝えてほしい。入った後に、元の学校に戻ると選択ができるのか伺いたい。	まだスタートしていない取組であり、学校を作り上げていく段階でもあることを、ご理解いただきたい。転入学後に、元の学校に戻ることは可能である。
ALTは決まっているのか。英語は第一言語なのか。決まっていない場合には、英語が第一言語の方をリクエストするのか。地域を特色を生かした学習について具体的に教えていただきたい。小規模校独自の取組があれば教えていただきたい。	ALTについては英語を第一言語とする人、というリクエストは考えていない。小張小学校では、現在も農業体験、綱火など地域と密着した学習に取り組んでいる。また、異学年交流も行われている。
申請期間が切羽詰まっている。なぜ、8年度からスタートなのか。在校生でスタートして、成功したら呼び込むことはできなかったのか。	英語教育推進校という枠組をつくったことでALT3名の配置が可能となっている。先行して、ALTの増員だけはできない。
在校生だけで英語推進校を始めなかった理由は？	児童数の減少が進んでいる。児童を呼び込むことで、活気ある学校にすると共に、英語教育を推進していくことを考えている。
来年度以降、入学を検討する場合、体験会や説明会のスケジュールを早めにHP公開することは考えているか。1回だけの説明ではなく、段階を踏んで体験会や説明会等、複数のスケジュールを組んだ内容になるのか。	英語教育推進校としてスタートを切ってからになるので、学校での説明会開催も含め、スケジュール感を持って進めていきたい。
スクールバスの導入は考えているか。児童クラブは拡大するのか。	現時点で、就学人数が確定しておらず、市内全域からの登校になることを踏まえると、スクールバスの運行は厳しいと認識している。児童クラブについては、生涯学習課とも連携して、入級希望人数に対応していく。
希望人数が多い場合に、次年度以降、2クラス、3クラスと増やすことはあるのか。	現段階でクラス数を増やすという検討は行っていない。
今後の実績により、クラス数を増やすこと等を検討して行く可能性はあるということか。	数年はこの形でと考えている。

通学の際、自転車で保護者と併走、または自転車にトレーラーをつけての送迎は可能か。	児童自身が自転車で併走してくるということは難しい。自転車にトレーラーをつける場合は、保護者の責任のもと、の範囲と考える。
わかっていることをもう一度やることは子どもにとって苦痛である。英語力に差があると思うが、習熟度別の取組は考えているのか。	英語の授業については文部科学省の指導要領に沿ったものとなる。英語でのコミュニケーションを充実させる取組が中心で、個人的なスキルの差はあると思うが、一斉に英語を学ぶ場を多く設けるものではないので、習熟度別については考えていない。
ALTの委託先がわかれば知りたい。委託先の実績も参考に選定しているのか。	委託先は今後選定する予定。近隣で実績のある複数の委託先から選定する予定である。
ALTの校内での配置はどうなるのか。	基本的には、ブロックに1名を配置することを想定している。担任の教師とチームを組む形で進めていきたいと考えている。
ALTが2学年に1名では足りないのではないかと考える。英語のできる子に負担がかかるのではないか。英語のできない子に、英語でコミュニケーションをさせるのは厳しいのではないか。	英語しか話すことのできないALTは小学校の段階では難しいと認識している。日本語でのコミュニケーションも可能なALTを配置したいと考えている。